

高島凱夫 直前ガバナーへの 感謝の言葉

国際ロータリー第2660地区 ガバナー
福家 宏



高島凱夫直前ガバナーへの感謝の言葉は、先ずもってこの紙面に書き綴れるものではありません。お世話様になった多くの事柄は枚挙にいとまがありませんが、敢えていくつかを述べさせていただきます。

私が諮問委員会に初めて出席させて頂いたのはガバナー・ノミニーの時でしたが、着席後間もなく高島直前ガバナーは静かに話しかけて下さいました。最も近い先輩から諮問委員会についていくつかのアドバイスを頂戴することにより、私の強い緊張感が幾分か和らいだことを忘れることはありません。

また私の所属する八尾中央ロータリークラブは少人数のクラブですから、地区の主要行事をホストするについては相当な不安感を持っておりましたが、村橋前代表幹事とともに主要行事の事前準備などの際には、その都度お声を掛けて頂き、見学の機会を与えて下さった上、色々ご指導を頂きました。

感動的だったのは地区大会に今やノーベル賞学者として名高い山中伸弥教授を特別講演者として招請されたことです。招請はされたものの地区大会直前にノーベル賞受賞が決定し、山中教授のご講演は実現はしませんでした。しかし当日は戸口田淳也 iPS細胞研究所副所長が立派なご講演をなさり、高島ガバナーはじめ大阪中之島ロータリークラブの皆様からは何らの動揺も感じさせられることはありませんでした。そして全てのプログラムを順調にお進めになり、素晴らしい地区大会となりましたことに、心から敬服致しております。

高島直前ガバナーは当地区の会員増強にも力を注がれました。「プロジェクト3900」のスローガンを掲げられますとともに、新クラブ(大阪みおつくしロータリークラブ)の設立にもご尽力され、6月17日にはチャーターナイトを実現させられました。新クラブ設立にどれほどのエネルギーが必要なのか、私にはなかなか想像が

つきませんが、ひとかたならぬご苦勞がおりであったものと拝察いたしております。

高島直前ガバナーは「育もう未来の力を～飛躍～」という地区方針のもと、次代のロータリーのために若い人々の育成を呼びかけられました。そしてIMにおいては地区方針に相応しい青少年育成関連のプログラムが準備され、多くのロータリアンが感動とやる気を与えられました。新世代プログラムはロータリー・ファミリーを生み出し、彼らが次代のロータリーを担う重要な力となります。新世代をどのように育成して行くのかは、私にとりまして重要な課題であり、今後も高島直前ガバナーのご指導を賜りつつ前進致したいと思っております。

今年度から全世界でFVPがスタート致します。これに伴い、ずっと続いて来たGSEプログラムは高島年度が最終となりました。昨年度GSEは高島直前ガバナーご自身が留学されていた、ドイツ・ハンブルクとの交換を実施されました。ハンブルク・チームの歓迎会、送別会ではドイツ語でご挨拶をされ、高島様のハンブルクへの思いやGSEへの思いが伝わって来るように感じさせられました。ハンブルク・チームの団長は日本語がかなり流暢で、日本については相当造詣の深い方だろうと思っておりましたが、その団長が知らなかった日本の文化に初めて触れた驚きと感動を語ってくれました。他のメンバー4名も、ハードスケジュールを十分にこなし、その分大いに成果が上がったようでした。高島直前ガバナーがこのGSEプログラムで有終の美を飾られましたことは、大慶の至りです。

これからも当地区の素晴らしいリーダーとして、若い人々を育て、私たちをお導き下さるようお願い致します。感謝の言葉と致します。